

総合計画（後期基本計画）（案）

政策7 地域が輝くまちの創生

施策9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～

1. 現状と課題

依然として続く少子高齢化により、人口減少に歯止めが掛かからず、地場産業や地域活動が厳しい状態となっています。蒲江地域の活性化を図るには、豊かな自然環境の活用や、地域や産業と関わりをもつ観光プラン・ルートの造成、ソーシャルメディア・SNS等を活用した情報発信が今まで以上に必要です。

空き家・空き店舗が年々増加し、閑散としている場所がより多くなっています。さらに、空き家が長い間放置されてる家は崩壊の可能性もあり危険です。この地域に活気を取り戻すためには、企業の誘致やワーケーション等も絡めた移住及び定住促進などの活用策の検討が必要です。

オーガニックシティ実現のために、今ある蒲江ブランドに加え、環境や住民の健康を守ること等オーガニックにつながる特産物を加えたブランド力を高める必要があります。

厳しい道路事情となっている蒲江管内の交通インフラの整備促進を目指します。

最後に、近年の異常気象による風水害や令和4年1月22日発生の日向灘沖地震を教訓に、さらに今後発生が予想される南海トラフ巨大地震の対策のために、地域の自主防災会と連携し、さらに防災意識を高め災害に強いまちづくりに取り組むことで、住民や地域を訪れる人々に安心を与える地域を目指します。

2. これからの基本方針

ア	自然体験型レジャー、地場産業の見学、地域（文化）資源などを絡めた新たな観光プランや観光ルートの開発に取り組めます。
イ	蒲江ブランドをオーガニックに繋がるものを加え、特産品などのブランド力を高めます。
ウ	交通インフラの整備促進を図ります。
エ	蒲江の空き家・空き店舗などを、企業や個人にワーケーション等を含めた利用をしてもらえるよう各方面に情報発信を行い誘致を図っていく。
オ	災害への事前準備や避難行動等が迅速に対応できる、強いまちづくりに取り組めます。

3. 主な取組

ア	蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発
	(ア) マリンスポーツやトレッキングなど自然環境をいかした観光プランの確立
	(イ) 水産業などの地場産業を絡めた観光の企画実践
	(ウ) 離島（屋形島・深島）をはじめとする滞在型観光の推進
	(エ) 花木の植栽及び保護による観光資源の開発
イ	蒲江ブランドの情報発信と定着
	(ア) ソーシャルメディア・SNS等を十分活用した、蒲江の食材を使ったイベントの実施
	(イ) 関係者や関係機関と連携し、蒲江ブランドの発信と県内外でPRイベント、キャンペーン等を実施
	(ウ) オーガニックについての研鑽・研修を重ね、蒲江ブランド力の向上につなげていく取組の実施
ウ	交通インフラの整備促進
	(ア) 国道388号楠本工区及び県道古江丸市尾線葛原浦丸市尾浦間バイパストンネルなどの整備に向けた取組
	(イ) 公共交通機関を活用した交通体制の検証・整備
エ	施設を活用した交流拠点づくり及び空き店舗活用
	(ア) 施設を活用したスポーツイベントやコミュニティ活動の推進
	(イ) 施設を活用した養殖業の研究など、あらゆる分野からの参入者の掘り起こし
	(ウ) 空き家・空き店舗の活用
オ	大規模災害を想定した防災・減災対策を推進
	(ア) 自主防災会、消防団、防災士等と連携し、地域防災力強化のための訓練を実施
	(イ) 住民や来訪者にわかりやすい避難路や避難地の誘導標識等を設置及び更新
	(ウ) 各地区の津波対策用備蓄倉庫配備品の賞味期限満了時の更新促進
	(エ) 避難行動要支援者支援プランに変更があった場合の自主防災会、社会福祉協議会等との協議
	(オ) 防災・行政ラジオの設置促進

4. 重点プロジェクト

人を呼び込む蒲江周遊観光プロジェクト

観光客の減少や産業の衰退による地域経済、人口減少を少しずつでも改善していく為、観光スポットの再発見及び磨き上げを行い、今ある蒲江ブランドにオーガニックの食観光や特産品を加え、さらにブランド力を高めていきます。また、蒲江を幅広くPRできる人や観光案内できる人等の人材育成を進め、蒲江と多様な関わりやルーツ・愛着を持つ関係人口増に繋がるようにSNS等の情報発信に積極的に取り組み、周遊観光を踏まえた交流人口の増加に繋がっていきます。

【目標指標】

目標内容	基準値 令和4年度（2022年度）	目標値 令和9年度（2027年度）
蒲江独自の新たな観光推進 による観光入込客数	339,016人	406,800人